

第37回 防災カフェ in 長浜を開催しました。



水害から大切な命と財産を守るために

ゲスト：里深 好文 さん

(立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授)

日時：2019年5月14日(火) 18時～20時

場所：長浜市役所 本庁 1階 多目的ルーム1・2

ファシリテータ：深川 良一 さん

(立命館大学 理工学部 特命教授)

近年、局地的な豪雨は増加していて、毎年のように土砂災害や洪水災害が発生しています。どうしたら水災害から大切な命と財産を守れるのか、一緒に考えました。



ゲスト 里深 好文 さん

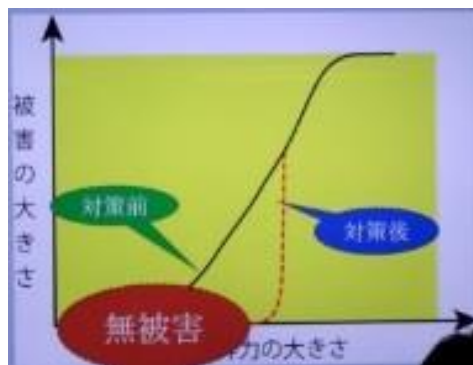
街中の道路が冠水する時間 50 mmの雨量の頻度は、昭和50年ごろからすると50～60%増加しています。原因の一つに地球温暖化があります。これによって豪雨の発生頻度も増えてその規模や範囲も大きくなるなど、今後も災害の頻度も増大すると考えられます。

最近の災害に2018年7月に広島市安芸区矢野東の扇状地(谷出口)に造成された住宅地を襲った土石流があります。事前に特別警報が出ていましたが、上流に治山ダムがあり、それ以前に他地域で大きな土石流があった時に、たまたま豪雨にならずにほとんど被害がなかったこともあり、避難がうまくいかずに10名近い人が亡くなりました。一般に山麓を開発する時に元々の川を狭くしたり、蓋をして道路にすることさえあります。土石流がつくった地形のところに道路や住宅を作っている状況が多くみられるということでした。

実際の土石流の映像を見せてもらいましたが、何の前触れもなく突然かなりの速さで多量の土石が通り道の木々をなぎ倒しながら谷を下っていきます。とても逃げられません。様子を見に行っても、何の情報も得られず、ただただ危ないだけで、土石流や大規模な洪水を前に人間ができることはなく、唯一できるのは早目に逃げることだということです。

次に、「防災での『想定』を知ること」、「安心と安全は別物であることを知ること」、そして、「ソフト対策にも限界があることを知ること」についてのお話がありました。

「防災での『想定』を知ること」についてですが、私たちは堤防やダムなどの災害対策後はどんな雨でも被害を軽くできると思いがちです。そのため「想定外」の雨などという、防災に悪いイメージを持ってしまいます。しかし、費用などの関係から堤防をどこまでも高くできないので、「想定」しないと対策できません。少量の雨は頻繁に降りますが、豪雨はめったにありません。時間 50mm の雨量程度では無被害ですが、稀に起きる「想定」を超える大雨が降って、水が堤防を越えると堤防がないのと同じような大きな被害が出るようになります。このように『想定』は必要で、『想定外』のことは起きるということを私たちは理解しておく必要があるということでした。



想定内と想定外の関係

「安心と安全は別物であることを知ること」についてですが、『想定』の中で、人間の作るものに無制限のものはありえないということでしたが、実は、私たちは安全を求めているのではなく安心を求めています。広島市安芸区矢野東の例では、これまで大きな被害がなかったことや治山ダムがあることで安全なんじゃないかなあと考え、安心してしまい逃げるタイミングを逃してしまったといえます。災害を避けるためには「時間 30 mm の雨では逃げなくてもいいけれど、50 mm ではがけ崩れが起きるかもしれない」というように、何かを疑いながら周りの状況に注意しながら適度な危機感をもって生活することが大切で、このような防災の姿勢は訓練によってのみ磨かれるということでした。



ファシリテータ 深川 良一 さん

「ソフト対策にも限界があることを知ること」についてですが、「情報に従い避難したが何も起きずに無駄になった」といわれると、警報や避難情報を出す方は、情報の「空振り」を恐がり、それを出すのをためらう状況になってしまいます。でも、危機が迫ったと判断すれば警報や避難情報は出さなければなりません。そこで、私たちが「空振り」ではなく、

「素振り」と考える、つまり、無駄になったのではなく、いきなり災害が迫った過酷な環境の中での安全な避難はむずかしいので、少し軽い段階で避難の経験ができたと考えれば、出す方は、躊躇なく避難勧告や避難指示を出せるのではないかということでした。



熱心に耳を傾ける参加者の皆さん

避難には個々人の責任が大きく関わっています。私たちが、不安だと思った時が避難時です。雨も降る、雷もなる、ニュースでは大雨警報とか特別警報といっ
ていても、「まだ大丈夫だよ」などと、それを打ち消す情報を一生懸命探して安心したがる生き物なんだということを自覚し、自分が感じている恐怖、何となく危機が来ているんじゃないかという感覚を大事にして、何となく不安だなあと思った時、より安全だ

と思われる場所、方向に避難を始めることが何よりも大事だということでした。

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：長浜市に住んでいる人が注意しなければならない災害と気を付けることは？

答：水害については、長浜駅から琵琶湖にかけて平坦な地形ですが、これは川が運んできた土砂が水面下で積み重なった後、水面が下がったものです。今は堤防がありますが、どこに水が行ってもおかしくないところです。山裾の方は、現在は一部を川が流れていて、川と山の間が農地になり山沿いに家屋が並んでいます。何十年に一度の洪水では家まで流されることはありませんが、それを上回ると全部が川になります。滋賀県は全国的にも水害の少ないところで、これは大変幸せなことですが、逆にいうとそれだけ水害やそれへの対応経験が少ないということです。そういうことが起きた時うまく対応できない可能性があるということになります。

地震については、液状化のリスクが高いと思われます。細かい土砂が堆積してできている所では、地下深くから地震の揺れが上がってきた段階で揺れが増幅されますし、液状化する場所もかなりあるのではないかと思います。また、見つかっていないだけで、日本中に活断層があつて安全なところはどこもありません。単に今わかっているかどうかです。地震が起きた後で、活断層があったことがわかる場合も多いので、直下型地震もあるかもしれないと思って地震対策をしていただくのがいいと思います。

里深さん、深川さん、参加者のみなさん ありがとうございました。